

全国環境研協議会加盟機関が実施している生物学的調査研究（令和6年度）

全国環境研協議会環境生物部会では、生物学的調査研究に関する情報交換を進め、共同研究への発展等に資することを目的として、加盟機関に生物学的調査研究の実施状況についてアンケート調査を実施しています。下表は、令和6年度に実施している調査研究課題名及び概要をまとめたものです。

実施機関名	岩手県環境保健研究センター
調査研究課題名 及び概要	<p>岩手県における絶滅危惧植物を対象にした種の存続の技術開発に関する研究</p> <p>岩手県において野生絶滅のおそれがある植物から、自生地が限定され残存数が少ない希少植物を存続させるために必要となる生息域内保全としての保護手法や生息域外保全としての苗生産法の開発に取り組むとともに、希少植物の資源的活用法についても研究を行う。</p> <p>[URL] https://www.pref.iwate.jp/kanhoken/kankyoku/1015879.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>イヌワシの繁殖力回復のための保全生物学的研究</p> <p>イヌワシの繁殖状況モニタリング、映像を用いた個体識別、遺伝子解析により、イヌワシの分布、繁殖状況、生息環境、個体群構造等に関わるデータを収集し、各個体の生態的、遺伝的、行動的特性を用いて生息や繁殖との関わりについて多面的に解析することによりイヌワシの保全に資する知見を得る。</p> <p>[URL] https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353_1/shizen/inuwashi/top.htm</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>ツキノワグマの個体数推定精度の向上ならびに生息密度がツキノワグマの出没に及ぼす影響</p> <p>生息数の推定精度を上げるため、クマの移動特性を考慮に入れた個体数推定モデルの構築を行う。また、生息密度とクマの出没件数や有害捕獲数等の他のデータとの関係性を明らかにする。</p> <p>[URL] https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353_1/shizen/mammal/work/mammal-work.html</p>
実施機関名	宮城県保健環境センター
調査研究課題名 及び概要	<p>共同研究Ⅱ型「多様な水環境の管理に対応した生物応答の活用に関する研究」</p> <p>国立環境研究所及び地方環境研究所との共同研究Ⅱ型に参加し、生物試験方法に関する情報収集・検討を行う。</p>
実施機関名	山形県環境科学研究センター
調査研究課題名 及び概要	<p>自然生態系保全モニタリング調査</p> <p>森林を取り巻く自然環境の異変等を早期に察知するため、山岳地域や里山において、動植物の生息・生育状況等自然環境の調査を行っている。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>ブナ・ナラ豊凶調査</p> <p>森林の更新や野生動物の生息動向に大きな影響を与えるブナ・ナラの豊凶調査を行っている。</p> <p>[URL] https://www.pref.yamagata.jp/053001/kurashi/kankyo/management/kenkyuucenter/bunahoukyou.html</p>

(続き) 山形県環境科学研究センター

調査研究課題名 及び概要	ツキノワグマ生息状況調査 現在、ツキノワグマによる農作物被害や人身事故の防止に向け、抜本的な対策が求められている。被害対策を行ううえで生息数の把握が極めて重要であることからカメラトラップを用いた生息状況調査を行っている。
調査研究課題名 及び概要	酸性雨モニタリング(陸水)調査(環境省委託事業) 環境省の委託により酸性雨の中長期的影響を把握するため、今神御池(山形県戸沢村)における水質調査及びプランクトン調査を継続的に行っている。
調査研究課題名 及び概要	脱臭装置の排ガス洗浄水中のアンモニア処理へのANAMMOX法の適用研究 県内事業場から採取したANAMMOX細菌を培養し、脱臭装置の排ガス洗浄水のアンモニアを処理するためにANAMMOX法を適用する。従来の硝化脱窒法よりも低コストであるシステムを構築することで、悪臭の低減に寄与する。
実施機関名	福島県環境創造センター
調査研究課題名 及び概要	野生動物に対する原子力発電所事故の影響に関する研究 野生動物の行動調査、DNA分析による食性調査や野生動物の筋肉・胃内容物の放射性核種濃度調査を実施し、一部の野生動物の放射性セシウム濃度が高い要因を調べる。 [URL] https://www.fukushima-kankyosozou.jp/lancelot/common_files/images/public/tyousegtwyg.pdf
実施機関名	栃木県保健環境センター
調査研究課題名 及び概要	湯ノ湖沈水植物の植生調査 奥日光水域の水環境保全対策の一環として、湯ノ湖に繁茂するコカナダモの刈取りの実施に当たり、コカナダモのほかヒメフラスコモ等の絶滅危惧種を含む沈水植物の植生及び生育状況を調査する。 [URL] https://www.pref.tochigi.lg.jp/e60/thecreport/thecreport.html
調査研究課題名 及び概要	水生生物調査 県内主要河川について、水生生物の生育状況を調査することにより、生物学的観点から水質を継続的に監視する。 [URL] https://www.pref.tochigi.lg.jp/d03/eco/kankyou/hozen/joujikanshikekka-mizu.html
調査研究課題名 及び概要	Ⅱ型共同研究「複数プライマーを用いた環境DNA底生動物調査手法の開発」への参加 国立環境研究所・地方環境研究所とのⅡ型共同研究「複数プライマーを用いた環境DNA底生動物調査手法の開発」に参画し、新たな水生生物調査手法として期待される環境DNA分析に関わる情報収集を行う。

実施機関名	群馬県衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	尾瀬国立公園尾瀬沼コカナダモ試験区の観察 国立公園内の尾瀬沼において、1982 年頃から観察されるようになった帰化植物のコカナダモについて、生態系保全のため試験区内において駆除を行い、その後の生育状況を経過観察し、その結果を年報で公開している。 [URL] 群馬県衛生環境研究所年報(下記のアドレスは直近のもの) https://www.pref.gunma.jp/page/624943.html
実施機関名	埼玉県環境科学国際センター
調査研究課題名 及び概要	県民参加を主体とした光化学オキシダント（オゾン）によるアサガオ被害調査 毎年7月に県民参加により、埼玉県内で生じる光化学オキシダントによるアサガオ被害の状況を調べる。具体的には県民との協働により、県内 30 地点程度でアサガオの葉に発現するオゾン被害を調査するとともに、その被害状況を地図化し、ホームページ等で公表する。 [URL] https://www.pref.saitama.lg.jp/cess/torikumi/asagaotyousa/index.html
調査研究課題名 及び概要	埼玉県における特定外来生物”クビアカツヤカミキリ”の生息状況調査 埼玉県における特定外来生物”クビアカツヤカミキリ”の生息状況を、県民参加による調査で把握し、結果をホームページ等で公表する。 [URL] https://www.pref.saitama.lg.jp/cess/center/kubiaka.html
調査研究課題名 及び概要	多様な水環境の管理に対応した生物応答の活用に関する研究(国環研Ⅱ型実施共同研究) 本研究は、WET法のほか、OECD テストガイドライン 202(ミジンコ急性遊泳阻害試験)、同 203(魚類急性毒性試験)に代表される急性毒性試験などの結果を比較し、全国の様々な水環境(河川や湖沼、汽水域を含む)の調査方法としての生物影響に関するデータ蓄積を図るとともに、生物種や試験法に基づく差異を明らかにする。
調査研究課題名 及び概要	埼玉県内水環境における水生動植物相の高精度網羅的調査手法の開発 平成 30 年度から、環境 DNA 網羅的解析による県内河川の生息魚類調査を進めてきた。これに加え、県内水環境に生息する甲殻類、両生爬虫類等も含めた調査手法に発展させることを目的とする。調査精度の検証と改善のため、採捕調査も併用しつつ検討を進める。令和 6 年度については、魚類を対象に定量網羅的解析について検討している。 [URL] https://www.pref.saitama.lg.jp/cess/torikumi/kenkyukadai/r04/1jisuyukenkyu/suiseidousyokubutsu.html

(続き) 埼玉県環境科学国際センター

<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>湛水開始時期を指標とした水田地帯における生物の生息適地推定</p> <p>本研究は、水田地帯に生息するサギ類およびカエル類の生息適地の推定を目的とする。衛星画像により地域ごとの水田の湛水開始時期を推定し、野外調査で得られるサギ類、カエル類の分布データとともに生息適地モデルを構築することで、各種生物の生息に適したエリアの可視化を行う。</p> <p>[URL]https://www.pref.saitama.lg.jp/cess/torikumi/kenkyuhyoka/r05/tannsui-kaisijiki.html</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>田植え時期の違いは水田食物網を改変するか？ミクロとマクロを結ぶ包括的生態系解析（科研費基盤C研究課題）</p> <p>本研究では、一次生産者の微小藻類から高次消費者のサギ類までを結ぶ水田食物網の構造を包括的に解析するとともに、田植え時期が食物網に与える影響を解明する。まず、炭素・窒素安定同位体比を用いて田面水中の食物網解析を行う。サギ類の食性については、糞DNAメタバーコーディングを用いた餌内容の網羅的解析により推定する。さらに、衛星画像から田植え時期を推定し、サギ類の採餌適地を季節ごとに可視化することで、水生生物からサギ類までを結ぶ水田食物網の季節的・空間的な分布を明らかにする。</p>
<p>実施機関名</p>	<p>公益財団法人 東京都環境公社 東京都環境科学研究所</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>生物多様性に着目した化学物質による生態リスク評価手法の構築</p> <p>無機化学物質のうち重金属について、生物利用性や毒性の高い形態に着目しながら濃度実態を調査するとともに、化学物質による生態リスクが生物多様性に与える影響を定量的に解析する。</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>保全地域における緑地の評価に関する研究</p> <p>東京都の保全地域を対象に、リモートセンシング技術、現地調査、インタビューなど、多様な手法で保全地域が提供している生態系サービスを総合的に把握する。また、保全地域の生物多様性評価のため、鳥類の定点調査を実施する。繁殖期および越冬期、2時期に保全地域に出現した鳥の種と個体数を記録し、鳥類の多様性を評価する。</p> <p>[URL] https://www.tokyokankyo.jp/kankyoken/</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>外来付着珪藻の繁茂に影響する環境因子に関する研究</p> <p>全国的に分布拡大が懸念される外来付着珪藻ミズタクチビルケイソウについて、水質等の環境因子と当該種の繁茂状況との関係を検討する。</p> <p>[URL] https://www.tokyokankyo.jp/kankyoken/research/independent-research</p>

(続き) 公益財団法人 東京都環境公社 東京都環境科学研究所

調査研究課題名 及び概要	外来付着珪藻 <i>Cymbella janischii</i> の国内河川への侵入と生育環境の実態に関する研究 (河川基金助成研究 (河川財団)) 全国的に分布拡大が懸念される外来付着珪藻ミズタクチビルケイソウについて、広域的な調査により国内河川への侵入実態を明らかにすると共に、生育環境の特性について情報を整理する。加えて、当該種の分布拡大防止に向け、監視体制の強化を検討する。
調査研究課題名 及び概要	保護上重要な野生生物種の保護策強化に向けた調査研究 都内における魚類や水生生物等の保護上重要な野生動植物種の生息状況を把握すると共に、外来種の生息や遺伝的交雑、生育環境の変化等の実態を明らかにし、野生動植物種の保護に資する科学的知見の集積を目的とする。 [URL] https://www.tokyokankyo.jp/kankyoken/research/contract-research
調査研究課題名 及び概要	東京都市圏における生態系サービス分布の可視化推進と予測 生態系機能 (サービス) を最大限に活用した緑化推進に貢献するため、首都圏全域の緑化樹木が持つ生態系サービス (大気改善、炭素貯留、暑熱緩和、鳥類生息場形成による生物多様性保全) と、負のサービス (BVOC 放出によるオゾン大気汚染) を定量的に評価するモデルを開発し、各々のサービスの現状分布を可視化する。 [URL] https://www.tokyokankyo.jp/kankyoken/wp-content/uploads/sites/5/2024/10/4-3.pdf
実施機関名	神奈川県環境科学センター
調査研究課題名 及び概要	複数プライマーを用いた環境 DNA 底生動物調査方法の開発 複数のプライマーを用いた環境 DNA 調査により、検出率の高い底生動物調査手法の開発を行うとともに全国的な底生動物 DNA データベース整備に取り組む。本研究については全国の地方環境研究所と国立環境研究所と共同で取り組む。 [URL] http://www.pref.kanagawa.jp/docs/b4f/cyousakenkyu/kadai/kadai-gaiyou/r02kadai-gaiyou.html
調査研究課題名 及び概要	環境 DNA による底生生物相把握手法の開発 生物から放出された細胞片等に含まれる DNA を分析することにより生物の存在を把握する手法である環境 DNA 調査について、河川に生息する水生昆虫等の底生動物を網羅的に調査する手法を開発するため、県内に生息する底生動物のミトコンドリア DNA データベースの整備を民間事業者と共同で取り組むとともに、大学等と連携したプライマー開発などに取り組む。 [URL] http://www.pref.kanagawa.jp/docs/b4f/cyousakenkyu/kadai/kadai-gaiyou/r02kadai-gaiyou.html

(続き) 神奈川県環境科学センター

調査研究課題名 及び概要	河川における自然浄化対策実施効果の生物学的な評価手法の開発 水源環境保全事業に基づく「河川・水路における自然浄化対策の推進」の実施河川及び未実施の河川について環境 DNA 調査を実施することにより、事業の実施が与える生物学的な影響を評価する手法を開発する。 [URL] http://www.pref.kanagawa.jp/docs/b4f/cyousakenkyu/kadai/kadai-gaiyou/r02kadai-gaiyou.html
調査研究課題名 及び概要	天然記念物仙石原湿原を守る!! 一水質汚濁の原因究明と環境 DNA 生態系調査手法の開発による湿原保全体制の構築一 史跡名勝天然記念物である仙石原湿原では、近年全窒素及び全磷の濃度が上昇し、富栄養化の傾向が確認されているが、現時点ではその原因が自然由来であるのか人為由来であるのかわかっていない。そこで、汚染源由来のトレーサー分析の手法を確立し、汚染原因と範囲を特定し、水質改善への道筋をつけるとともに、水生昆虫類等の環境 DNA 調査手法を開発して調査を行うことで湿原生態系への影響を明らかにする。 [URL] http://www.pref.kanagawa.jp/docs/b4f/cyousakenkyu/kadai/kadai-gaiyou/r02kadai-gaiyou.html
調査研究課題名 及び概要	環境 DNA による田んぼの生物相把握手法の開発 NEC と NPO が協働する「NEC 田んぼ作りプロジェクト」の田んぼを対象に、環境 DNA による生物把握手法を開発し、農法や管理状況の違いが生物多様性に与える影響を評価することを目的とする。 [URL] http://www.pref.kanagawa.jp/docs/b4f/cyousakenkyu/kadai/kadai-gaiyou/r02kadai-gaiyou.html
調査研究課題名 及び概要	研究成果展開事業 共創の場形成支援プログラム本格型(共創分野)ネイチャーポジティブ成長社会実現拠点 東北大学がプロジェクトリーダーを務める研究に参画。(以下「ネイチャーポジティブ発展社会実現拠点」の研究計画より抜粋) 自然の劣化を回復基調に転じる「ネイチャーポジティブ」の理念に基づき、アカデミア、金融・ビジネスセクター、自治体、市民等を巻き込んだ包括的なアプローチで、国際的な社会変革をリードする。自然の高度な科学的理解に基づく自然の価値の可視化、ネイチャーポジティブに資する基礎・応用研究の促進、自然資本への資金の流れの加速および産業の創出、社会のシステムや制度設計への貢献、専門知識を備え地域で活躍する人材の育成や起業促進等を、一体的かつ効率的に展開する。アンダーワンルーフのもと業種や国境を超えた連携・共創を促進し、国際課題であると同時に地域創生の鍵でもあるネイチャーポジティブ実現を支えるハブとして自立する。 [URL] http://www.pref.kanagawa.jp/docs/b4f/cyousakenkyu/kadai/kadai-gaiyou/r02kadai-gaiyou.html

実施機関名	山梨県衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>外来付着珪藻 <i>Cymbella janischii</i> の国内河川への侵入と生育環境の実態に関する研究（日本水環境学会地域水環境行政委員会における共同研究）</p> <p>日本水環境学会地域水環境行政委員会の会員が共同し、外来付着珪藻 <i>Cymbella janischii</i> の全国的な侵入実態調査を実施する。また、水質等の環境因子の解析から生育環境の特徴を明らかにすることを目的とする。</p>
実施機関名	長野県環境保全研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>絶滅のおそれのある高山遺存種の保護回復に関する調査研究</p> <p>高山生態系は気候変動に脆弱とされ、長野県では近年ニホンジカによる高山植物の採食や高山植生の変化も進行しています。この高山生態系に遺在する生物のなかで、特に絶滅のおそれの高い生物、(1)高山生態系のシンボル種であるライチョウ、(2)ハヶ岳固有の高山植物を対象に、その保護回復の取組に不可欠な生態情報の収集と緊急的な保全対策を図ります。</p> <p>[URL] https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/jigyo/gyomu/shizen.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>生物多様性の主流化に向けた基盤情報の整備と情報発信</p> <p>長野県では2014年に生物多様ながの県戦略を策定し、人と自然が共生する信州の実現に向けてさまざまな施策を展開してきました。しかし、生態系問題の単独解決には限界があり、多くの分野での保全策の実行と連携が不可欠であると指摘されるようになってきました。本研究では、行政をはじめさまざまな社会経済活動において生物多様性を主流化し、持続可能な社会を目指すために必要な情報の整備と発信、その活用事例づくりを行います。</p> <p>[URL] https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/jigyo/gyomu/shizen.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>大型哺乳類の保護管理にむけた個体特性および個体群構造の解明</p> <p>野生動物と地域社会の共存にむけ、大型哺乳類による農林水産物等の被害軽減や人身被害の抑止の実現は、大きな課題となっています。本研究の目的は、被害対策方針決定に必要となる野生動物側の情報を収集し、提供することにあります。より効果的な被害対策および健全な野生動物個体群の維持を推進するため、野生動物の行動や食性、個体群の増減傾向など、対策に必要な生態情報を明らかにしていきます。</p> <p>[URL] https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/jigyo/gyomu/shizen.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>自然共生への行動変容につながる情報デザイン</p> <p>人と自然が共生する持続可能な社会の実現（例：SDGs）に向けて、私たちの行動を変える必要があります。本研究では、生物多様性保全や気候変動対策について「わかりやすく、具体的な行動につながりやすい情報」として加工・編集し、発信します。</p> <p>[URL] https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/jigyo/gyomu/shizen.html</p>

実施機関名	長野県諏訪湖環境研究センター
調査研究課題名 及び概要	<p>気候変動下における諏訪湖の生物資源量の把握に適した手法の開発</p> <p>人間活動の増大に伴って気候が大きく変動するなかで、諏訪湖の水環境を良好な状態に保ち、各種資源を持続的に利用するためには、水質データに加えて、生物に係るデータ集積が求められている。この研究では、湖沼生態系を構成する主要生物(水草、プランクトン、底生動物、魚類)の資源動態を継続的に把握するための適切な手法を開発し、その実践と検証により、生物モニタリングの体制を確立する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>諏訪湖とその周辺に生息する魚類等の種多様性と分布動態の解明</p> <p>諏訪湖では在来魚・移植魚を含め40種以上の生息記録があるが、ワカサギ等の一部の主要水産種を除き、多くの魚種の分布や空間利用、採餌生態についてはほとんど調査されていない。この研究では、主に環境DNA分析技術を用いて、湖全体の魚類群集の種多様性と分布動態を解明する。さらに得られた標本の食性分析からワカサギを含む魚類の食物網構造や種間関係を把握する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>野尻湖沿岸域の水草に関する研究</p> <p>野尻湖はかつて水草帯が豊富な湖であったが、ソウギョの放流などにより水草帯が喪失し水質が悪化した経過がある。喪失した水草帯の復元を目指して、地域や関係団体等との協働により約25年以上にわたる取組がなされた結果、平成29年度ごろから、限られたエリアと種類ではあるものの水草が再び確認されるようになったことから、現在の野尻湖は水環境の重要な転換期を迎えていると推察される。この研究では、野尻湖において、水草の復元状況を継続的に把握するとともに、空中・遠隔画像を用いた効率的な調査手法の開発を目指す。</p>
実施機関名	静岡県環境衛生科学研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>外来不害虫ヤンバルトサカヤスデの分布・生態特性の解明</p> <p>1980年代に台湾から沖縄に侵入し、近年本州でも確認されている外来種ヤンバルトサカヤスデは、秋の繁殖期に異常発生して集団で壁によじ登ったり家屋に侵入するなどの不快感被害を引き起こし、静岡県内でも問題となっている。これまで、静岡県内における本種の生態特性や環境適応度を把握するとともに、分子生物学的手法を用いて分布拡大パターンを解明してきた。現在、県内の市町、保健所へのアンケート調査を秋の異常発生が起こる時期に実施し、分布拡大状況の把握に努めている。</p> <p>[URL] ヤンバルトサカヤスデのまん延防止に御協力ください https://www.pref.shizuoka.jp/kurashikankyo/shizenkankyo/wild/yasei/1017705.html</p>

(続き) 静岡県環境衛生科学研究所

<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>高山帯希少種の生息環境把握</p> <p>静岡県の高標高地域には、南アルプスのライチョウやオオシラビソ、伊豆半島における太平洋側ブナ林のように、動植物の南限となる固有の種が多く、気候変動による気温上昇や積雪域の減少に伴う分布適域の縮小、個体群の絶滅など、重大な影響が危惧される。そのため、これらの地域に気象観測装置やトレイルカメラを設置し、気候変動影響を評価するための温度等の基礎データや植生・動物の状況の収集を行う。一部適応型共同研究にて実施。</p> <p>[URL] 【バーチャル研究所】環境科学部のおしごと（環境科学部） https://www.youtube.com/watch?v=_1KhA64MYbM</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>複数プライマーを用いた環境DNA底生動物調査手法の開発（国環研Ⅱ型共同研究）</p> <p>底生動物の環境DNAデータベース構築が遅れているため、様々な河川水中のDNAとそこで捕獲した底生動物を調査することで、データベースの拡充を図る。Ⅱ型共同研究に参画。</p>
<p>実施機関名</p>	<p>さいたま市健康科学研究センター</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>多様な水環境の管理に対応した生物応答の活用に関する研究</p> <p>国立環境研究所及び地方環境研究所との共同研究Ⅱ型に参加し、生物試験方法（WE T手法等）に関する情報収集・検討を行う。</p>
<p>実施機関名</p>	<p>横浜市みどり環境局環境科学研究所</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>山下公園前海域における生物相モニタリング調査</p> <p>山下公園前海域ではこれまでの研究の結果、スラグ等による浅場造成により生物が増加し、水質浄化に寄与することがわかってきた。さらに浅場造成範囲の拡大を目指していくにあたり、今後も多様な生物が育まれる環境であることを確認するため、スラグ等が生物付着基盤（生き物のすみかや逃げ場）としての機能を維持しているかどうか、年1回のモニタリング調査を継続している。</p> <p>[URL] https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/naiyou/umi/yamashita.html</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>水域生物多様性に関する調査（海域）</p> <p>横浜市内の水域生物の生息状況を把握し、生物指標による水質評価を行うことを目的として、2年おきに河川域調査と海域調査を実施している。令和6年度は秋季、冬季に市内の河口・海岸、内湾の10地点で魚類、海岸動物、底生動物、海草・海藻、プランクトンの調査を行う。なお、令和7年度の春季、夏季調査（予定）と併せて第16回目の海域調査結果として取りまとめる。</p> <p>[URL] https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/naiyou/tayosei/kaiiki.html</p>

(続き) 横浜市みどり環境局環境科学研究所

調査研究課題名 及び概要	支川域の生物調査 河川モニタリング調査では3～4年ごとに生物生息状況の調査を行っており、令和4、5年度は本川を中心に41地点で実施した。しかし、生物調査を近年実施していない地点もあり、特に支川域の生物生息状況を十分に把握できていない。そのため、生物多様性保全の基礎資料とすることを目的に、支川域の生物調査を実施する。令和6年度は支川域の5地点前後において、魚類および底生動物を対象に調査を行う。
調査研究課題名 及び概要	陸域生物多様性に関する調査 横浜市内陸域生物の生息状況を把握し、環境変化や地域特性による生物相の違いについて基礎資料を得ることを目的として、4年間で12地点を一巡できるよう調査している。令和6年度は氷取沢市民の森、久良岐公園、横浜公園・山下公園において、植物、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、昆虫類の調査を行う。 [URL] https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/naiyou/tayosei/forest.html#6832D
調査研究課題名 及び概要	こども「いきいき」生き物調査 市民に地域の自然や生き物への関心を高めてもらうとともに、生物多様性保全に資する基礎データを取得することを目的として、平成25年度より横浜市全域で小学生による生き物調査を実施している。令和6年度は市立小学校全339校に調査票を配布し、ツバメの巣、白サギのなかまなど9種類の生き物を過去1年間に学区内で見つけたかについて回答してもらい、調査結果としてまとめる。 [URL] https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/naiyou/tayosei/ikiiki.html
実施機関名	川崎市環境総合研究所
調査研究課題名 及び概要	河川等の水質及び水生生物の生息・生育状況モニタリング調査 川崎市大気水環境計画に基づき、市内河川、海域、親水施設等の水質や水生生物の生息状況を継続的に調査している。 [URL] 過去の調査結果については、研究所ホームページ内の年報のページに掲載 https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-8-17-0-0-0-0-0-0.html
実施機関名	富山県環境科学センター
調査研究課題名 及び概要	富山湾沿岸海域における藻場の二酸化炭素吸収量の評価 富山湾のアマモ場や養殖漁業によるブルーカーボン量及び牡蠣養殖による炭素固定量を算定し、炭素吸収量を試算するとともに、養殖事業を実用化した際の地球温暖化対策効果を推計し、将来的に富山湾でのCO2の吸収源と位置づけ、養殖漁業への付加価値創出を目指す。

実施機関名	福井県衛生環境研究センター
調査研究課題名 及び概要	微生物を用いた試験による湖沼環境の影響評価に関する研究 北潟湖、三方五湖を対象に、流域からの流入水による植物プランクトンへの影響を、生物応答試験を利用して評価する。
調査研究課題名 及び概要	多様な水環境の管理に対応した生物応答の活用に関する研究 国立環境研究所及び地方環境研究所との共同研究Ⅱ型に参加し、生物試験方法（WET手法等）に関する情報収集・検討を行う。
実施機関名	愛知県環境調査センター
調査研究課題名 及び概要	愛知県鳥類生息調査 県内で鳥類の定点調査を実施
調査研究課題名 及び概要	ガンカモ類生息調査 環境省のガンカモ調査を実施
調査研究課題名 及び概要	愛知県絶滅危惧種等フォローアップ調査 県内の絶滅危惧種の分布調査を行いレッドデータブックを作成する。
調査研究課題名 及び概要	外来アリの生息状況モニタリング調査及び防除効果の検証 外来アリの生息状況モニタリング調査を行い、外来アリの分布を把握するとともに防除の効果を検証する。
調査研究課題名 及び概要	海上の森自然環境保全地域における希少種の保全についての調査 海上の森自然環境保全地域でシデコブシの保全について調査する。
実施機関名	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
調査研究課題名 及び概要	緊急時における原因物質等調査手法の活用 サブテーマ1：事故時等の原因物質等分析手法の再構築 サブテーマ2-2：緊急時原因物質等調査手法への活用（生態影響評価） ・水質汚濁関係の事故・苦情事案について、化学物質網羅的簡易迅速測定とあわせて生態影響評価を用いた環境影響の把握を効率的に行う手法を構築する。 ・国立環境研究所・地方環境研究所とのⅡ型共同研究「多様な水環境に対応した生物応答の活用に関する研究」に参画し、生物応答試験（生態影響評価）に関する情報収集と生態影響試験の精度を確認する。 [URL] 滋賀県琵琶湖環境科学研究センターHP https://www.lberi.jp

(続き) 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター

<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>琵琶湖・瀬田川プランクトン等モニタリングと植物プランクトン遷移の現状評価</p> <p>1. 琵琶湖・瀬田川プランクトン等モニタリング調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物プランクトン、動物プランクトン、ピコプランクトン (北湖4地点, 南湖1地点で年24回) ・植物プランクトン、動物プランクトン、ピコプランクトン(瀬田川1地点で年52回、毎週HPで結果公表) <p>⇒プランクトンのモニタリング結果を理化学的な水質調査結果と併せて解析・評価し、県環境審議会等の場で報告する。</p> <p>2. 植物プランクトン遷移の現状評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期に蓄積してきたプランクトンのモニタリングデータを用いて、琵琶湖南湖における植物プランクトンの季節変化パターンの分類と経年変化の解析、水質、気象等との関係性の解析を行い、解析結果を用いた現状評価を行う。 <p>3. 西の湖アオコ原因プランクトン調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖に接続する内湖である西の湖の水質改善事業における現況把握のために、アオコ発生期(5~11月)にアオコ形成プランクトン種の調査を行う(うち1点は植物プランクトン詳細調査)。 <p>[URL] 滋賀県琵琶湖環境科学研究センターHP https://www.lberi.jp 瀬田川プランクトン調査結果 https://www.lberi.jp/setagawa_plankton</p>
<p>実施機関名</p>	<p>地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>野生鳥獣のモニタリング調査</p> <p>農林業被害の軽減・人と野生鳥獣の共存を図るため、大阪府では鳥獣保護管理法に基づく大阪府鳥獣保護管理事業計画やシカ・イノシシの第二種鳥獣管理計画を策定している。この管理これらの計画の策定や進捗状況の点検のためには、地域におけるシカ・イノシシ等の生息状況や被害状況などの定期的なモニタリングが必須である。そこで、大阪府鳥獣保護管理事業計画およびシカ・イノシシ第二種鳥獣管理計画の進捗状況を点検見直しするための基礎資料を提供する。</p> <p>[URL] https://www.knsk-osaka.jp/_files/00128391/06_shika.pdf https://www.knsk-osaka.jp/_files/00128407/07_inoshishi.pdf</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>アライグマのモニタリング調査</p> <p>本来日本には生息しない外来種であるアライグマは、近年生息域を広げて農業被害が拡大しており、大阪府では外来生物法に基づく防除実施計画を策定して対策を実施している。計画の策定や進捗状況の点検のためには、アライグマの生息状況や被害状況など定期的なモニタリングが必須である。そこで、大阪府アライグマ防除実施計画の進捗状況を点検見直しするための基礎資料を提供する。</p> <p>[URL] https://www.knsk-osaka.jp/_files/00128933/08_araiguma.pdf</p>

(続き) 地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所

調査研究課題名 及び概要	農作物を加害するヌートリアの生息状況把握とモニタリング 外来種ヌートリアによる被害は、大阪府内でも中部地域で近年被害報告が多発するなど拡大しつつある。農作物被害軽減のためには、被害発生初期段階においてヌートリアの生息状況を適切に把握するとともに、当該市町村において外来生物法に基づく防除実施計画を策定し、モニタリングを継続しながら科学的な防除体系を確立していくことが必要である。そこで、大阪府による総合的な助言指導や市町村による防除実施計画策定のための基礎資料を提供する。 [URL] https://www.knsk-osaka.jp/_files/00128506/21_nutoria.pdf
調査研究課題名 及び概要	イタセンパラ保護定着調査 国の天然記念物の淡水魚イタセンパラは、河川改修によるワンドの消失、河川の攪乱の減少、外来魚の増加などにより個体数が著しく減少し、平成17年を最後に生息確認が途絶えた。そこで、当研究所で生息域外保全を行ってきた個体を、国土交通省近畿地方整備局 淀川河川事務所とともに、淀川のワンドへ野生復帰を行った。本種を含めた在来魚の生息・繁殖状況を明らかにする。また、外来水生生物の実態を把握し、駆除手法を開発するとともに、本種を含めた在来魚種に感染する恐れのある魚病検査を実施する。 [URL] https://www.knsk-osaka.jp/_files/00128452/15_yodogawa.pdf https://www.knsk-osaka.jp/_files/00128469/01-11_itasenpara.pdf
調査研究課題名 及び概要	希少魚保護増殖試験 都市化に伴う生息環境の悪化や外来種の侵入等により、大阪府内では魚など多くの水生生物に生息数の著しい減少がみられるようになった。そこで、大阪府における保護上重要な野生生物（レッドデータブック）で絶滅危惧種に指定され、現在絶滅が危惧されているイタセンパラなどの希少種について、種の系統保存を図るとともに、その生息状況を把握する。 希少種の生息状況については、従来の捕獲調査に加えて、環境DNA分析技術を取り入れて実施している。 [URL] https://www.knsk-osaka.jp/_files/00128445/14_osakagyoruisou.pdf
調査研究課題名 及び概要	淡水生物増殖試験 大阪府における保護上重要な野生生物（レッドデータブック）に記載されている希少水生生物を保護するための調査試験を行う。平成15年度から平成26年度にかけては水生植物ミズアオイ、平成27年度からは淡水二枚貝のイシガイ類の保全に係る研究、令和2年度からは水生昆虫の生息状況調査に取り組んでいる。 [URL] https://www.knsk-osaka.jp/kankyo/gijutsu/seika/mizukusa.html

(続き) 地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所

調査研究課題名 及び概要	安威川ダム魚類等調査業務 令和4年にダムが完成した安威川において、アジメドジョウをはじめとした魚類、付着藻類や底生動物などの水生生物を調査し、ダム建設が河川環境にどのような影響を及ぼすかを明らかにする。 [URL] https://www.knsk-osaka.jp/_files/00128483/17_aigawadam.pdf
調査研究課題名 及び概要	漁業権河川調査 大阪府内河川に設定されている漁業権免許の更新時には、漁業法第11条に基づいた漁業計画の策定が必要となる。漁業計画策定に際しては、漁場の有効性等を検討する必要があることから、河川漁業権漁場の総合的な実態調査を実施する。調査地点の無機的环境、付着藻類、底生動物、魚類の調査を実施する。 [URL] https://www.knsk-osaka.jp/_files/00128476/16_gyogyoken.pdf
調査研究課題名 及び概要	共同研究Ⅱ型「多様な水環境の管理に対応した生物応答の活用に関する研究」 国立環境研究所及び地方環境研究所との共同研究Ⅱ型に参加し、生物試験方法（WE T手法等）に関する情報収集・検討を行う。本府は、生物試験に用いる河川水の採水を担当した。
調査研究課題名 及び概要	共同研究Ⅱ型「複数プライマーを用いた底生動物環境DNA調査手法開発」 国立環境研究所及び地方環境研究所との共同研究Ⅱ型に参加し、環境DNAによる底生動物調査に関する情報収集・検討を行う。本府は、分析に用いる河川水の採水や底生動物の採集等を担当した。
調査研究課題名 及び概要	マイクロプラスチックが水生生物に及ぼす影響 河川生態系に生育する二枚貝や淡水魚の保全のため、河川におけるマイクロプラスチックの存在量と生体内への蓄積に関する現地の実態調査を行うとともに、水槽での飼育でその影響を明らかにする。
調査研究課題名 及び概要	クビアカツヤカミキリの被害分布図等の作成 大阪府で各市町村及び公共施設から収集したクビアカツヤカミキリ被害報告について、データの位置情報の追加を実施し、その結果を基に被害分布図及び被害分布拡大予測図の作成を行う。 [URL] https://www.knsk-osaka.jp/_files/00147866/B-3_.pdf
調査研究課題名 及び概要	流木対策事業効果検証調査業務 大阪府が実施した強度間伐実施林分および近隣の無間伐の林分において下層植生の繁茂状況と土砂の移動量を測定し、強度間伐による土砂移動量抑制効果を明らかにする。 [URL] https://www.knsk-osaka.jp/_files/00128698/01_ryuboku.pdf

(続き) 地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所

調査研究課題名 及び概要	和泉葛城山ブナ林保全調査業務 ブナ林内に設置された気象観測装置の記録データを収集するとともに、種子トラップを用いた種子生産数や健全率の調査と、自動撮影カメラを用いた哺乳類相調査を実施し、国の天然記念物に指定されている和泉葛城山ブナ林の森林更新の可能性を明らかにする。 [URL] https://www.knsk-osaka.jp/_files/00147774/A-3_.pdf
実施機関名	(公財) ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター
調査研究課題名 及び概要	干潟・藻場の栄養塩類再生及び炭素貯留機能の評価 播磨灘における藻場の周年変化と水質環境の解明、大阪湾における干潟底質による栄養塩類循環への寄与の評価
実施機関名	奈良県景観・環境総合センター
調査研究課題名 及び概要	だるま橋（大和川基準点）河川水のWET試験 大和川基準点であるだるま橋で採取した試料水について、ニセネコゼミジンコを用いた繁殖への影響評価を行ない、試料に含まれる毒性を評価する。
実施機関名	和歌山県環境衛生研究センター
調査研究課題名 及び概要	第2次底生動物相を用いた河川の水質評価－有田川－ 底生動物相の把握および底生動物による水質評価を目的とした調査研究を、和歌山県の主要な11の河川を対象として、平成6年度から平成16年度まで実施してきた（第1次調査）。平成28年度からは、第2次調査として底生動物相の最新状況の把握と調査結果の比較検討を目的とした調査を開始し、令和6年度においては有田川の調査を行っており、ASPT値、shanonの多様度指数、pantle-backの汚濁指数の3種により、水質及び生物多様性の評価を行っている。
実施機関名	名古屋市環境科学調査センター
調査研究課題名 及び概要	急性毒性試験を用いた環境水の安全性評価手法の検討 化学物質の流出等による水質事故や死魚事件では、原因となりうる化学物質は多岐にわたっている。これら化学物質等の流出は、人為的ミスによるものに限らず、地震や風水害等自然災害を原因とする事故においても発生するリスクがあると考えられる。 流出事故が発生した場合には、自然環境や社会生活に大きな影響を与えることから、全項目の化学分析よりも簡単に行える水生生物を用いた毒性試験を実施し安全性を評価することで、市民の安全安心を確保する。

(続き) 名古屋市環境科学調査センター

調査研究課題名 及び概要	市内ため池における内部生産抑制手法の研究 本研究では、ため池における内部生産（植物プランクトンの増殖による汚濁）に着目し、市内ため池の現状を把握した上で、内部生産を抑制し水質改善へつなげるための手法について検討する。
調査研究課題名 及び概要	環境DNAを用いた底生動物調査に関する研究 水生昆虫に代表される底生動物に着目し、環境DNA技術を用いた底生動物相調査が本市の生物相の把握に活用できるか検討を行う。 [URL] https://www.city.nagoya.jp/kankyo/cmsfiles/contents/0000068/68418/dayori45.pdf
実施機関名	大阪市立環境科学研究センター
調査研究課題名 及び概要	公立小学校における生物多様性の評価とその普及に関する調査研究 大阪市内の公立小学校において、児童とともに校内に生息する動植物等を探索し、都市域における生息情報を収集するとともに、生物多様性に関する理解を深める機会を与える。得られたデータに基づき、各生物種の分布の地域特性や周辺環境との関連性について、地理情報システム（GIS）を用いて解析を行なう。
調査研究課題名 及び概要	北港処分地における衛生動物のモニタリング調査 大阪市北港処分地南地区において、ネズミ類、ハエ類、ユスリカ類の生息密度をモニタリングし、その防除方法を提案している。
調査研究課題名 及び概要	トノサマガエル国内移入集団の生息状況と分布拡大プロセスの解明 大阪市内で生息しているトノサマガエルを中心に遺伝子解析を行い、国内移入集団の生息状況と分布拡大プロセスの解明を目指す。
調査研究課題名 及び概要	外来植物の送粉者に関する調査研究 日本国内に定着している外来植物、および日本国外に定着している日本産植物の送粉者を調査し、送粉シンドロームから予測される送粉者と比較することにより、新たな外来植物が侵入した際に獲得する送粉者相を送粉シンドロームにより予想できるかどうかを検証する。
調査研究課題名 及び概要	桃ヶ池公園における生物調査 大阪市内に位置する桃ヶ池の生物相を把握することを目的に、動植物の生息状況を現地調査により評価する。

実施機関名	神戸市健康科学研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>国Ⅱ型共同研究「複数プライマーを用いた環境DNA底生動物調査手法の開発」</p> <p>国Ⅱ型共同研究「複数プライマーを用いた環境DNA底生動物調査手法の開発」に参加し、国立環境研究所及び神奈川県環境科学センター他の地方環境研究所とともに以下の課題について検討を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 河川底生生物の捕獲調査時に環境DNA調査を実施し、複数プライマーを利用することにより、環境DNAによる底生動物調査手法を開発する。 2. 捕獲した底生動物のDNAをシーケンスすることにより、底生動物DNAデータベースの充実を図る。
実施機関名	鳥取県衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>水環境における生物多様性保全事業</p> <p>湖山池・東郷池で衰退が著しい水生植物及び湖山池で消失した鳥取県特定希少野生動植物のカラスガイについて、湖内または流域内での保全を進め、湖沼生態系・生物多様性の回復を行う。</p> <p>[URL] https://www.pref.tottori.lg.jp/144171.htm</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>里海里湖流域圏の生態系機能を活用した生物多様性及び生態系サービス回復に関する研究（国環研Ⅱ型共同研究）</p> <p>国立環境研究所と各地方環境研究所が共同し、里海里湖流域圏がもたらす水資源、水産資源、生活圏形成といった生態系サービスの劣化が今後の気候変動の影響下で一層進行することを見据えて、生態系機能を賢く利用することでそれらを回復させる知見の集積を目指す。</p>
実施機関名	島根県保健環境科学研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>アオコ発生・継続に関与する環境因子の解明に関する調査</p> <p>アオコの発生から発生後まで、宍道湖沿岸部を含めた化学的な水質検査を行うとともに、植物プランクトンの優占種や出現種の変化について調査する。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>植物プランクトンのDNA解析に係る調査研究</p> <p>環境DNAを用いたジェオスミン産生Coelosphaeriumの遺伝子検出法の確立およびDNAメタバーコーディングによるプランクトンの把握を行い、水質との関連調査を行う。</p>
実施機関名	広島県立総合技術研究所保健環境センター
調査研究課題名 及び概要	<p>豊かな瀬戸内海の実現に向けた調査研究</p> <p>広島県内の干潟に貯留される炭素量(ブルーカーボン)を定量評価し、干潟の環境特性や里海活動などの利活用との関係性を明らかにする。また、里海活動により形成された藻類による炭素貯留量の定量評価を行う。</p>

実施機関名	山口県環境保健センター
調査研究課題名 及び概要	<p>里海里湖流域圏の生態系機能を活用した生物多様性及び生態系サービス回復に関する研究（国環研Ⅱ型共同研究）</p> <p>国立環境研究所と各地方環境研究所が共同し、里海里湖流域圏がもたらす水資源、水産資源、生活圏形成といった生態系サービスの劣化が今後の気候変動の影響下で一層進行することを見据えて、生態系機能を賢く利用することでそれらを回復させる知見の集積を目指す。</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>樫野川河口干潟の住民参加型里海再生活動を通じた生態系サービスの維持・向上に関する研究</p> <p>網袋と被覆網を用いた住民参加型アサリの保護・育成手法の実施評価、県立きらら浜自然観察公園でのアサリ生息地形成及び親水性確保の実証試験、ブルーカーボン等の気候変動対策に資する基礎データの収集等、山口湾全域を対象とした生態系サービスの向上や里海の再生に資する研究を行う。</p>
実施機関名	香川県環境保健研究センター
調査研究課題名 及び概要	<p>ニッポンバラタナゴ<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>の遺伝子解析 —ニッポンバラタナゴ香川個体群の遺伝子モニタリング—</p> <p>ニッポンバラタナゴはコイ科タナゴ亜科に属する日本固有の小型淡水魚で、環境省のレッドデータブックにおいても絶滅危惧種IA類(CR)に指定されている。香川県の東讃地域はニッポンバラタナゴの貴重な生息地である。</p> <p>ニッポンバラタナゴの保護には、交雑の恐れのあるタイリクバラタナゴとの正確な判別が不可欠であるが、両亜種は形態には差異が少なく、外見では判別が困難である。そのため、ミトコンドリアDNAのPCR-RFLP分析による遺伝子モニタリングを行っている。</p>
実施機関名	高知県衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>四万十川における清流基準調査</p> <p>平成13年に制定された「高知県四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例」で定められた清流基準について調査を行っている。この清流基準は、環境基準に加えて人間が感じる水質の状態の微妙な変化を表すために、新たに清流度（水平方向の透明度）、水生生物及び窒素・りん的项目を設定したものである。</p> <p>[URL]</p> <p>◆高知県自然共生課HP https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030701/2017100600014.html</p> <p>◆高知県衛生環境研究所HP 高知県衛生環境研究所報第4号（2022年度） https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/syohou-link/file_contents/file_20233153101218_1.pdf</p> <p>高知県環境研究センター所報第29号（平成24年度） https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/kochikenkankyokenkyuusenta-syoho/</p>

(続き) 高知県衛生環境研究所

<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>【国Ⅱ型共同研究】複数プライマーを用いた環境DNA底生動物調査手法の開発 国立環境研究所及び地方環境研究所との共同研究Ⅱ型に参加し、底生動物の環境DNAを用いた調査手法に関する現地調査・情報収集・検討を行う。本県では、底生動物の捕獲及び分析に用いる河川水のサンプリング等を行う。</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>環境DNA分析技術を用いたアユカケ（魚類）生息調査 県中部の一級河川である物部川は、BODやSS等の環境基準を満たしてはいるが、それとは別に誰もが分かりやすい物部川の環境を計る指標（環境ものさし）を検討している。 物部川に生息する魚類のうち「アユカケ（カマキリ）」は、平成14年頃までは比較的下流の堰（町田堰）で確認されていたが、生息には河川環境の総合的な変化が大きく影響するため、ダムや流域での土木工事の影響からか、最近ではさらに下流地点でしか目視での確認が出来なくなってきた。 このアユカケについて環境DNA手法を用いて生息調査を行っている。</p>
<p>実施機関名</p>	<p>福岡県保健環境研究所</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>共同研究Ⅱ型 複数プライマーを用いた環境DNA底生動物調査手法の開発 国立環境研究所及び地方環境研究所との共同研究Ⅱ型に参加し、大型無脊椎動物をはじめとした河川等の底質に生息する生物の環境DNAを用いた調査手法に関する現地調査・情報収集・検討を行う。本県では、底生動物調査及び環境DNA調査（採水・ろ過）を実施する。</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>福岡県保健環境研究所研究課題 ワンヘルス・アプローチに向けた生態系把握への環境DNAの適用に関する研究 ワンヘルス・アプローチに向けて、環境DNA分析を活用し、水辺を利用する野生生物（魚類、鳥類、哺乳類、微生物）を把握する調査手法を確立する。本研究では、対象とする生物種に適した試料採取方法や環境DNA分析手法等について検討を行う。</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>福岡県保健環境研究所研究課題 多様な水環境の管理に対応した生物応答の活用に関する研究 国立環境研究所及び地方環境研究所との共同研究Ⅱ型に参加し、生物試験方法（WET手法等）に関する情報収集・検討を行う。本県は有機汚染物質の藻類生長阻害試験により水質評価を実施する。</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>福岡県保健環境研究所研究課題 生物応答試験と網羅分析の迅速化による化学物質スクリーニング法の開発 本研究では、災害時における水環境への流出化学物質対策として、生物応答試験と機器分析による網羅分析法を併用し、1日で結果報告可能な化学物質スクリーニング法の開発を目的とする。</p>

(続き) 福岡県保健環境研究所

調査研究課題名 及び概要	共同研究Ⅱ型 アサガオ新規品種を用いた環境ストレス影響評価およびモニタリング
	分子的メカニズムに基づくストレス診断によって、野外における植物の環境ストレスに対する影響評価・解析を行い、環境情報の充実と大気環境の保全に取り組むための科学的知見の蓄積を行う。
調査研究課題名 及び概要	福岡県保健環境研究所研究課題 環境DNAを用いた水生外来種の分布把握手法に関する研究
	令和4年5月に外来生物法が改正され、地方自治体の防除主体としての役割が高まる ことが予想されること、県域に広く分布するアメリカザリガニとアカミミガメの2 種の水生種が新たに特定外来生物に指定されたことから、この2種を中心に水生の 侵略的外来種を環境DNAで検出可能か検証し、分布把握のための手法を種ごとに整 理・確立することを目的として行う。
調査研究課題名 及び概要	福岡県保健環境研究所研究課題 環境DNAを用いた野生動物の生息状況把握に関する研究
	生物多様性保全のためには、そこにどのような生物が生息しているか把握すること が必要である。一方で従来の調査手法は高度な技量が求められ、対象種ごとに異な る評価手法・技術が必要なため、複数種及び県全域をカバーするには大きな労力が 必要である。そこで、本研究では、環境DNAとGIS(地理情報システム)を組み合わせ ることで、効率的な野生動物の分布推定手法の確立を目指す。
調査研究課題名 及び概要	福岡県保健環境研究所研究課題 福岡県における侵略的外来水生植物の防除に係る研究
	外来生物法の改正により、定着が確認された特定外来生物の防除が県の責務となっ ている。一方、福岡県では、特定外来生物であるオオカワヂシャの新たな定着や生 育状況不明であったナガエツルノゲイトウの大繁茂など、新たな外来種問題が生じ ている。そこで、本研究では、これらの侵略的外来水生植物を対象に、県内の生育 状況及び生活史特性の把握、防除手法の検討を行う。
調査研究課題名 及び概要	共同研究Ⅱ型 森林生態系における新たな生物・環境モニタリング手法の検討
	日本各地におけるブナ林など、衰退が懸念される森林生態系の評価と保全対策に資 するための生物・環境モニタリング手法を検証・確立させて、標準調査マニュアル を作成整備する。また、これらを活用して、全国の自治体での観測調査ネットワー クの展開を推進する。 [URL]福岡県保健環境研究所年報 https://www.fihes.pref.fukuoka.jp/~kikaku/Reports/Reports%20list/reports% 20list.html 福岡県保健環境研究所ホームページ http://www.fihes.pref.fukuoka.jp/~kankyouseibutsu/topics/20150519/index.html

(続き) 福岡県保健環境研究所

<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>共同研究Ⅱ型 複数プライマーを用いた環境 DNA 底生動物調査手法の開発 様々な水域において底生動物の採捕調査を行い、得られた標本のシーケンスデータに基づいて底生動物の種同定を目的としたDNAデータベースを作製する。同時に複数プライマーを利用した環境DNAによる底生動物調査手法の開発を行う。</p>
<p>実施機関名</p>	<p>長崎県環境保健研究センター</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>ツシマヤマネコ保護増殖事業（環境省委託事業）にかかる糞等のDNA分析 ツシマヤマネコ保護増殖事業の一環として、生息状況モニタリング（痕跡調査）において採取された糞サンプルについての種判別・性判別・個体識別の実施、保護個体及び死亡個体の個体識別を行う。</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>希少な昆虫類保全のためのアメリカザリガニ分布調査 特定外来生物のアメリカザリガニについて、希少種が生息するなど優先的な侵入状況把握が必要な地域や、侵入状況が不明な地域等において分布調査を行う。</p>
<p>実施機関名</p>	<p>宮崎県衛生環境研究所</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>硫黄山噴火後の重金属等による河川水質、水生生物への影響調査 平成30年の硫黄山噴火による影響で、周辺の河川水が白濁し、環境基準値を超えるヒ素などの有害物質が検出され、河川から農業用水が利用できないという問題が起き、生態系にも影響した。県では、石灰石による水質改善実証試験を実施し、緩やかではあるものの水質改善効果を確認した。また問題となったヒ素濃度は、石灰石による水質改善によって生成する鉄の水酸化物とヒ素が共沈し、濃度が低下すると考えられた。 そこで、県実施の水質モニタリング調査結果を基に、令和6年度も水質改善施設運用開始後における河川水の重金属類の追加調査・解析を行うほか、水生生物調査を実施することにより、水生生物への影響を調査する。 [URL] http://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/fukushi/eikanken/evaluation/r3.html</p>
<p>実施機関名</p>	<p>鹿児島県環境保健センター</p>
<p>調査研究課題名 及び概要</p>	<p>複数プライマーを用いた環境DNA 底生動物調査手法の開発 (国環研Ⅱ型共同研究) 国立環境研究所及び地方環境研究所との共同研究Ⅱ型に参加し、大型無脊椎動物をはじめとした河川等に生息する生物の環境DNAを用いた調査手法に関する現地調査・情報収集・検討を行う。当県では、環境DNA調査（採水・ろ過）を実施する。</p>

実施機関名	沖縄県衛生環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>沖縄県のサンゴ礁生態系への気候変動・地域環境複合影響を軽減するための赤土流出削減指標策定</p> <p>サンゴ礁生態系は気候変動による地球規模のストレスと、陸域負荷などの地域規模のストレスにより急激に衰退しており、対策が急務である。沖縄県及び沖縄県衛生環境研究所は、20年以上にわたり赤土等堆積量とサンゴや海藻等の底生生物群集の分布のモニタリングを継続してきた。また、平成25年には沖縄県赤土等流出防止対策基本計画によって環境保全目標を定め、赤土等流出・堆積の調査やモニタリングを行っている。本課題ではこれらのモニタリングの成果をデータベース化しつつ統計解析や現場検証を行うことにより、赤土堆積量等の削減とサンゴ、海藻、底生動物群集の生息量の関係、生物間の相互作用を明らかにし、底生生物群集の存続性を維持するために必要な赤土等流出削減目標や削減効果を明らかにする。</p> <p>[URL] https://adaptation-platform.nies.go.jp/local/lccac/joint_research.html</p>
実施機関名	福岡市保健環境研究所
調査研究課題名 及び概要	<p>福岡市内河川の底生動物を用いた環境評価</p> <p>福岡市内河川の水環境について、水質検査だけでは把握できない環境影響や長期的影響を把握することを目的として、河川底生動物を指標とした環境評価を5河川（多々良川、那珂川、御笠川、樋井川、室見川）で順に実施している。令和6年度は那珂川の淡水域について底生動物の調査を実施し、ASPTや水生生物による水質判定を用いて環境評価を行った。</p> <p>[URL] 福岡市保健環境研究所報 https://www.city.fukuoka.lg.jp/hokanken/kenkyu/shoholist.html</p>
調査研究課題名 及び概要	<p>博多湾における環境DNAを用いた魚類のモニタリング</p> <p>博多湾における魚類の生息状況を広範囲で把握することを目的に、湾内の環境基準点を対象に環境DNA技術を用いた魚類の網羅的モニタリング調査を実施し、採水地点や季節等の調査手法の検討を行う。</p>